（１）下田小学校

学　　校　　長　上田　壮
校内研究代表者　浅尾　優加

1.　研究主題

「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」
～伝え合い、学び合い、深め合う算数科の授業づくりを通して～

2.　主題設定の理由

昨年度は、下田小スタンダードに加え、授業改善プログラムの到達目標を意識して授業改善を行ってきた。導入を工夫し、見通しを持って個人思考や交流で考えを深め合い、自分の言葉でまとめや振り返りができる授業づくりを意識してきた。その結果、子どもたちが本時のめあてを設定し、主体的に課題解決に取り組む姿や、友達に自分の考えを説明しようとする姿が増えてきた。また、まとめや振り返りまで１時間で完結できる授業スタイルも定着してきた。

しかし、本校の児童は、じっくり話を聞くことや最後まで丁寧な作業を行うことなど、粘り強く取り組むことに課題が見られる。また、基礎基本の積み上げの部分に課題がある児童もおり、学力の２極化が大きな課題である。さらに、適切に言葉を使って、自分の思いを相手に伝えることが苦手だという児童も少なくない。各種学力調査の結果を見ても、思考力を必要とする問題や、文章題や記述問題などの出題の意図を捉えて、表現する問題への正答率が低い。

このような実態を踏まえ、今年度も、研究テーマ「自ら課題を追求し、主体的に学ぶ子どもの育成」は継続し、授業改善を進めることとした。そのために第一に、授業への興味・関心を高める導入の工夫を行い、どの児童もやってみたい、分かりたいという学習意欲を高めたい。そして、既習内容を活かした、教え合い関わり合いのある、分かる授業づくりを行いたい。また、読み書き計算の徹底と、個々に応じた加力学習の充実にも力を入れ、学力の底上げも図りたいと考えている。

また、本年度も昨年度同様、算数科を研究の中心に置き、既習事項やキーワードを使って、自分の考えを式や図、言葉などで表現できる力を養っていく。さらに、道徳科の授業づくりにも力を入れ、子どもたちが自分ごととして考えたり、多面的・多角的に物事を捉え、自分とは違う立場や考えを理解しようとしたりする心を育てていきたい。そして、仲間と共に意欲的に課題に取り組む姿を目指していきたいと考えている。

3.　研究の進め方と方法

(1) 研究組織

・全体会（校内研究・職員会）
・研究推進委員会及び企画委員会・・・第１金曜日（校長・教頭・教務主任・研究主任・事務）
・ブロック・・・必要時（低ブロック…東、畠中、髙橋、河上、濵口、西村　　高ブロック…石川、小川、浅尾、篠田）
・部会・・・必要時
　　学力向上部（浅尾・小川・高橋・石川）
　　生活指導部（畠中・東・篠田・河上・濵口、西村）

(2) 授業研究

・全体研…算数２本、

（指導案を作成。全体で事前研と事後研を行う。事後研には指導主事招聘。）

・ブロック研…道徳２本

（指導略案を作成。事前研はブロックで行う。事後研は全体で協議する。）

・事後研では、４つの視点にそってKJ法でよかった点、課題や改善点を出し合い課題解決に迫り、次の授業に生かしていく。

・参観者は、授業後に授業参観者カードを記入する。

(3) 水曜日午後の活用の仕方（14：50～16：30）

・第１週・・・職員会、生活指導研究・発表朝会等の反省

・第２．３．４週…研究主題に関わる研究

運営・・・司会者、記録者は席順で順番制とする。

推進・・・企画委員会が前回までの経過に基づいて研究の方法を提示する。

（４）研究主題具現化の視点

(1) 授業改善への取組

・見方・考え方を働かせた授業づくりの推進

・子どもの考えを引き出すための導入の工夫

・子どもの考えを「つなぐ」「広げる」「もどす」ことを意識した「学び合い」を取り入れた授業づくり

(2) 基礎基本の定着

・下田小スタンダード、授業改善プランを徹底する。

・指導事項の確認

・学習計画を提示（見通しを持たせる）

・帯タイムを活用し、「読み、書き、計算」の反復練習をする。

(3) 伝え合う力をつけるため

・　発表朝会

・　班学習、ペア学習等で関わり合う授業作り

・　言語活動を取り入れた授業の展開

・　話し方（聞かせること）の工夫

・　情報活用能力をつけるための活動の工夫

(4) 語彙をふやすため

・　辞書の活用（全校一人一冊）　全校での辞書引きの実施

・　並行読書の吟味や課題図書の推進

・　読む活動の工夫と積み重ね（音読等）

(5) 書く力をつけるため

- 感想文・行事作文を計画的に実施
- 要点をまとめる活動の場を設定
- グッドノート賞（自主学習）
- 授業の中で書く頻度を高める（自力解決・振り返りなど）
- 視写の継続
- ＮＩＥの推進（新聞投稿、スクラップシート・はがき新聞・学校新聞作り等）

５．今年度の成果と課題

【成果】

・研究授業を全学年で実施できた。講師を招聘した研究授業は２回（複式算数）、ブロック研は２回（道徳）実施した。講師に習ったことを基に、授業の導入部分を充実させ、数学的な見方・考え方を働かせる授業実践に取り組むことができた。また、高知大附属小学校の沖先生による講話を１回実施することができた。

・下田小スタンダードに沿った流れで授業を展開することができている。見通しを持ってめあてを設定し、自分たちの言葉でまとめができるように取り組めた。

・朝の脳トレタイムで音読、視写、計算、読書を実施し、昼のチャレンジタイムで、新出漢字の反復練習、ローマ字タイピング練習を行うことで、基礎学力の定着に繋げることができた。タブレットを活用することにより、個に応じた課題を行い、力を伸ばすことができた。

・自主学習は、ノートづくりにおける６つのめあてを全校で共有することで、児童がめあてを持ちながら意欲的に取り組むことができた。

・昨年度に引き続き、全校で様々な NIE に取り組むことができた。スクラップシート作りについては、家庭での自主学習の一環として取り入れることで、新聞を読んだり記事について考えたりする機会を増やすことができた。また、新聞記事を紹介する活動を通して、自分の考えを端的にまとめて伝え合うとともに記事についての理解を深めることができた。更に、NIE コーナーを設けることで、気軽に新聞を手に取り親しむことができた。

・ICT 機器（タブレット、書画カメラ、デジタル教科書等）を活用した校内研究を計画的に行い、効果的な活用の仕方について学ぶことができた。また、効果のあった活用例や教材等を共有し、その後の指導実践に生かすことができた。

【課題・来年度に向けて】

・学力調査の結果から昨年度より改善傾向にあるものの、依然として基礎基本の定着が課題として挙げられる。分かる授業の実践（既習を生かした授業、見通しを持ち主体的に学ぶことのできる授業）により学習内容を確実に身に付けさせていくとともに、家庭学習や加力指導にも更に力を入れ、学習内容を定着させていく必要がある。

・思考力を要する問題や記述問題にも弱さが見られる。日々の授業の中で、根拠を基に理論的に説明できる力を高めることができるようにする。また、書くことについては、日々の授業や家庭学習の中で、条件を提示しそれを基に書くことを意識的に行いながら、自分の考えを表現できる記述力をつけていく。また、推敲する習慣を身に付けさせていく。